

委員会名	2022年度 第3回 生産技術委員会
開催日時	2022/9/1(木) 16:00~17:20
開催場所	オンライン開催(Google Meet)
出席者 (敬称略)	吉岡委員長、加藤副委員長、桐山(運営幹事)、高居(運営幹事)、久々宇(運営幹事)、山本、安達、巳波、西崎、荒木、青木、深江、中田、中島、知識、古井、菅井、村田、村井、上谷 以上26名中、20名
議事	<p>1. 話題提供</p> <p>JX 吉満様より「高温高圧坑井掘削プロジェクトにおける Managed Pressure Drilling 適用事例」について話題提供いただいた。</p> <p>2. 委員交代等の連絡とご挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JX 西崎委員が退任し、荒木委員が後任となった。 <p>3. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識委員より幹事会議事概要(第87期4回、第87期5回)が報告された。 ✓ 石油開発 ABC 改修費用については理事会了承され技術協会基金より充当することとなった。 ✓ 一般会計報告について、春季講演会の参加費をクレジット決済にて行ったため、7月末で参加費の支払いが完了した。合計450万円ほどであった。今後の決済方法について、クレジット決済に加え、バーコード決済等の利便性、幅広い世代のニーズを踏まえ、事務手数料・最小利用者数を確認した上で可能性について検討する。 ✓ 秋季講演会については、小柴ホールでの開催を予定しているが、東京大学小林先生から提案のあった Zoom のライセンスを用いれば、ライブ配信ができる可能性もある(300名まで無料提供可能とのこと)。300名以上の費用については要調査。 ✓ 令和5年度の春季講演会については、秋田開催をベースに議論され、ハイブリッド開催では事務局の負担が大きいことが想定されるなどの状況を考慮の上、最適な開催方法を今後検討する。開催場所については、これまで利用していたホテル会場の使用料が高くなったため、必要部屋数や必要物品などのコストを踏まえ選定していく方針である。 <p>参加費については、費用とのバランスを見ると、一人7,000~10,000円の参加費となる見込みであるが、廉価になるように検討を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 春季講演会各委員会のアンケート結果については、結果集約中であり、まとめ次第幹事会で報告する予定である。 ✓ 日本地下水学会の共催WSについてはワーキンググループを立ち上げ、開催に向けて検討を進めていく方針である。 ✓ 石油技術協会賞の会告案については、修正漏れ箇所や用語修正などの微修正を行った ✓ 将来像検討チーム(仮称)を発足させる方針である。幹事会でワーキンググループメンバーを募り、検討を進めていく。 <p>(質疑・議論事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ (次年度春季講演会の)参加費用が高額である印象を持つが、(協会全体の)会計が赤字であ

ることも考慮に入れて、今後精査していきたい。

4. 理事会報告

- ・ 吉岡委員長より第 87 期第 3 回理事会議事概要の報告がされた。
 - ✓ 日本地下水学会との共催 WS については幹事会からの提案内容(ワーキンググループメンバー・進め方)を理事会にて承認した。
 - ✓ 秋季講演会についても、講演テーマ・講演者について概ね決定したが、開催方法やプログラムについては現在調整中である。
 - ✓ 春季講演会については、幹事会での報告にある通り、会場候補・利便性を勘案し、できるだけ廉価な開催方法を進める方針である。
 - ✓ 将来像検討会議(幹事会報告では将来像検討チームに相当)の発足については、コンプライアンスの観点から理事会が諮問する形になった。議論過程については会員にオープンにしながら進めていくことを考えている。検討会議の答申を理事会が承認し、来年度の総会に諮ることとなる。

5. 2022 年度春季講演会 シンポジウム関連

- ・ 久々宇委員より春季講演会生産部門(個人講演・シンポジウム)シンポジウム査読状況について報告がされた。
 - ✓ 各査読者の依頼が完了し、原稿を受領し次第、査読の依頼を行っている。
 - ✓ 運営幹事から適宜、査読担当者へ依頼を行うので、ご協力お願いする。

6. 2023 年度春季講演会 シンポジウムについて

- ・ 加藤副委員長より、来年度春季講演会シンポジウム開催に向けたアンケート依頼と今後の進め方について報告がなされた。
 - ✓ シンポジウムテーマの選定につき、2022 年度の参加者アンケートおよび本委員会後依頼する委員アンケートをもとに進める方針である。
 - ✓ 開催方式(実開催のみ、オンラインとのハイブリッドなど)については全体方針と足並みを揃える必要があるものの、参加者アンケートではハイブリッド開催に好意的な反応であった。最適な開催方法について、委員アンケートにて各委員のご意見を伺いたい。
 - ✓ シンポジウム小委員メンバーで、事前打ち合わせを行い、アンケート内容の議論を行った。特に推薦したい講演内容・発表者について自社/他社問わず、アイデアを出していただけると企画立案に大変役立つので、ご協力願う。
 - ✓ Web 開催のアイデアとして、いくつか配信拠点を絞ってハブリックビューイングの形式で配信することで、配信システム費用などのコスト削減につながるとの意見があった。
 - ✓ 今後のスケジュールについては、9 月末までに委員アンケートを実施し、10~11 月にテーマ・講演内容の案を詰め、年明け 1 月に素案を取りまとめ、3 月に事務局提出を予定する。

7. 次回以降の委員会開催日・場所について

- ・ 桐山委員より次回秋田大学での開催形態について秋田大学、運営幹事で協議した内容が紹介された。
- ・ コロナ前の開催形式としては、学生 10~20 名に対し、委員 10 名程度の参加規模となっていた実績があり、プログラム案を運営幹事で検討を行った。
- ・ 開催にあたっては、生産技術委員の参加可能人数(各社の感染症対策行動指針等を踏まえて)・懇親会の参加可否等をふまえ、開催形式を判断していく方針である。
- ・ 秋田大学との協議から実開催による開催を目指す、懇親会についてはコロナ感染状況を見極めた上で判断する(現時点では会食は 4 名までとなっている)。懇親会の実施が難しい場合は学生との座談会を考えている。
- ・ 今後の予定については、9 月下旬を目途に委員へのアンケートを実施し、日程・参加可能人数を調査した上でアジェンダを調整する。
- ・ 当初 11/4(金)を開催候補日として予定していたが、祝日(11/3)と土曜を挟むため、11/2(水)も候補として考えている。

	2022(案)		2021(実績)
第 1 回	5 月 12 日 (木)	JOGMEC→オンライン	JOGMEC→オンライン
第 2 回	7 月 7 日 (木)	ハイブリッド(INPEX)	INPEX→オンライン
第 3 回	9 月 1 日 (木)	JX→オンライン	JX→オンライン
第 4 回	11 月 4 日 (金)	秋田大	秋田大→オンライン
第 5 回	12 月 2 日 (金)	東北大	東北大→中止
第 6 回	1 月 12 日 (木)	CIECO	CIECO→オンライン
第 7 回	3 月 2 日 (木)	JAPEX	JAPEX→オンライン

以上